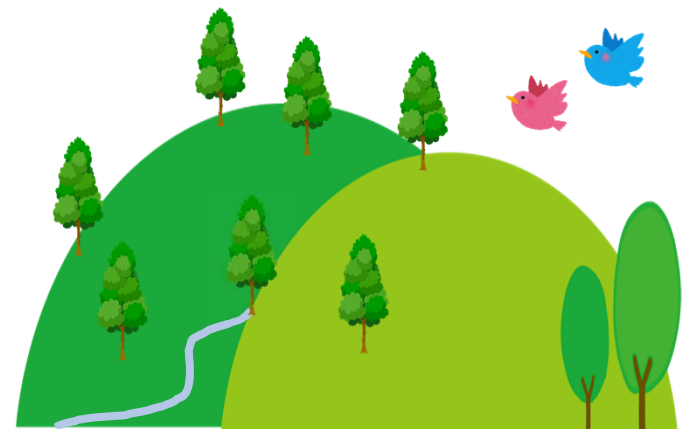


(本日のご報告内容)

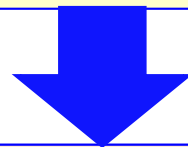
1. はじめに
2. これまでに改善しつつあるもの（広報媒体）
3. これから改善するもの（双方向コミュニケーション等）
4. これから改善するもの（教育や交流など）
5. まとめ



1. はじめに

【懇話会で、いただいたご意見・ご提言】

- ✓ 研究開発を通じた地域への貢献、地域の活性化に取り組むこと
- ✓ 研究とともに、教育や交流など息の長い取り組みにすべきこと
- ✓ 地域の魅力を情報発信すること
- ✓ 安全・安心を住民にPRしていくこと
- ✓ 分かりやすい資料にすること
- ✓ 人形峠の存在を町民や一般の方に知ってもらう努力をすること



【現在の取り組み状況】

- ✓ 限られた資源のなかで、まず、広報媒体の改善に努めています。
- ✓ 鏡野中学校への出前授業で新たに人形峠センターの概況を紹介しました。
- ✓ また、平成31年度からの活動について検討を進めています。

3. これから改善するもの（双方向コミュニケーション等）

【事業説明会の開催】

来年度（平成31年度）、一般の方を対象とした人形峠センターの取り組みやリスク対策等にかかる事業説明会を開催する予定です。



一般向け事業説明会のイメージ

【出前説明会の実施】

これまでホームページなど周知方法を改善する取り組みを行ってきました。来年度（平成31年度）は、既に開催要請をいただいている団体もあるところ、より分かりやすい説明資料の作成、積極的な実施など取り組みを強化してまいります。



出前説明会の様子

【科学実験教室の開催】

これまで倉敷市で開催される「科学の祭典」や、津山市・鏡野町・三朝町・倉吉市の小学生を対象とした科学実験教室を人形峠センターで年2回開催してきました。今後は出前説明会のような出先でも放射線等の実験ができるような準備を整えます。



今年度の様子
(H30/8/18、12/22実施)

【サイエンスカフェの開催】

一般的に科学技術は敷居が高いとされています。このため研究者・技術者と一般の方々が気軽に科学について直接語り合える場として、新たにサイエンスカフェを開催する予定です。



写真はイメージです

4. これから改善するもの（教育や交流など）

4

【岡山大学・津山高専と連携した取り組み】

岡山大学・津山高専・人形峠センターがこれまで個々に行ってきた地域の持続的継続に係る課題対応について、3者が連携して取り組むことにしました。そのキックオフとして、平成31年2月、シンポジウムを開催しました。具体策の検討を今後進めていきます。



岡山大学・津山高専・人形峠センター共催のシンポジウムの様子
(H31/2/15開催)

【鏡野中学校への出前授業】

これまで「エネルギー資源」「放射線」に関して出前授業を行ってきています。分かり易さ、そして科学技術に興味を示してもらえるように内容を改善していきます。



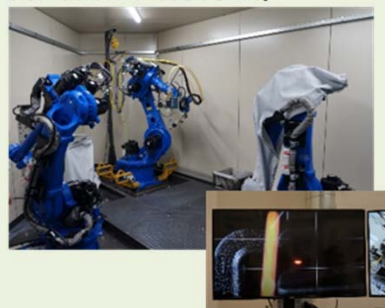
今年度の出前授業の様子 (H31/1/9~15実施)

津山高専・美作大学等との連携

(共同研究による学校の強み創出及び人材育成)



味覚分析技術の確立及び高付加価値食材の開発 (美作大学)



レーザー加工のシミュレーション技術の民間適用及び高度化 (津山高専)

成果展開事業の推進、地域企業との連携活動の推進



機構の成果展開事業の推進、地域の企業と連携した製品の開発等に継続して取り組みます。また、つやまイノベーションセンターとの連携活動を進めます。

自治体や津山高専等が開催する各種イベントへの参加、企業訪問にも引き続き取り組みます。

- これまで開催した懇話会において、事業の信頼性・透明性確保の重要性について多くのご意見・ご提言をいただきました。特に情報公開についてはまだ不足しているとのことをご意見をいただいています。人形峠センターにおいても、その重要性を再認識し、広報媒体など活動内容の一部改善を図ってきたところです。
- 東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、原子力という言葉聞くだけで不安になる方もいらっしゃると思われます。そのような状況のなか、人形峠センターの事業に不安を抱く方々へどう向き合うべきなのか、今後も試行錯誤していかねばならないと考えています。
- 人形峠センターの活動に伴う地域の方々へのリスク等も説明すべきというご意見もいただきました。今後とも、研究開発や廃止措置を実施するだけでなく、科学的根拠を踏まえた丁寧な説明や疑問点などへの丁寧な回答等の取り組みを一つ一つ積み重ねていきたいと考えています。下記の施設見学につきましても、来訪者の方々に時間の許す限り施設を見ていただくとともに、疑問に答えていきたいと考えています。

施設見学の状況。平成30年度は689名（2月末現在）を受け入れました。



ウラン濃縮原型プラント



製錬転換施設



鉱さいたい積場



見学坑道